様式第１（第１５条関係）

会　　議　　録

会議の名称	令和８年度第１回和泉市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和８年８月２１日（金）午後２時００分から午後４時０５分まで
開催場所	和泉市役所　３階　３Ａ・Ｂ会議室
出席者	和泉市上下水道事業経営審議会委員７名 市長、上下水道部長、上下水道部次長（下水道整備担当）兼水道施設室長、上下水道部次長（経営総務担当）兼お客さまサービス課長、水道施設室水道施設整備担当課長、水道施設室水運用管理担当課長、下水道整備課長、経営総務課長、その他事務局１１名
会議の議題	将来にわたり安全で強靭かつ持続可能な和泉市水道事業の経営のあり方について
会議の要旨	・開会 ・委員委嘱 ・市長挨拶 ・委員紹介 ・会長及び副会長の選出 ・諮問 ・報告「和泉市水道事業の概況について」 ・審議「和泉市水道ビジョン・経営戦略に基づく取組みについて」 ・閉会
会議録の作成方法	□全文記録 ■要点記録
記録内容の確認方法	■会議の議長の確認を得ている □出席した構成員全員の確認を得ている □その他（　　）
その他の必要事項（会議の公開･非公開、傍聴人数等）	公開 傍聴人数１名

審　議　内　容　（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

１．開会

【事務局】

大変長らくお待たせいたしました。

ただいまから、「令和８年度第１回和泉市上下水道事業経営審議会」を開会させていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、和泉市上下水道部経営総務課の山岡でございます。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日はすべての委員がご出席されていることから、審議会規程第６条第２項に定める定数を満たしており、本会は成立いたしておりますことをご報告します。本審議会につきましては、審議会規程第６条第３項に基づき公開となっておりますが、会議の公正が害されるおそれがあると認められる時は非公開とすることも可能となっております。非公開とする場合は当該会議に諮ることとなります。また、公開部分につきましては議事録を事務局の方で作成後、会長にご報告のうえ、市ホームページ上で公開していきたいと考えております。なお、議事録作成のため、会議を録音させて頂きたく存じますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは、配付資料の確認をお願いします。

・次第
・資料１　和泉市上下水道事業経営審議会委員名簿
・資料２　諮問書の写し
・資料３　和泉市水道事業について　事業概況報告
・資料４　和泉市水道ビジョン・経営戦略　各施策に関する進捗状況
・資料５　和泉市水道ビジョン・経営戦略　進捗状況まとめ
・参考資料　和泉市上下水道事業経営審議会規程

以上となっております。配付資料に不足がありましたら、お申し出ください。

それでは、本審議会の委員の皆さまに、和泉市長より委嘱状を交付させて頂きます。市長が名簿の順に皆さまのお席に伺いますので、その場でご起立のうえお受け取りください。

２．委員委嘱

３．市長挨拶

【市長】

本日は、ご多用のところ本市の上下水道事業経営審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。上下水道事業を取り巻く環境は、人口減少や施設の老朽化、物価や人件費の高騰に加え、南海トラフ巨大地震など大規模地震のリスクが指摘される中で、これまでになく厳しさを増しております。国におきましては、『上下水道政策の基本的なあり方検討会』において、将来を見据えた上下水道政策の方向性が議論され、第２次のとりまとめが公表されています。上下水道を『最も重要なインフラ』と位置づけ、経営と施設整備の両面から、その基盤を強化していくことが示されております。また、先日発生した熊本地震では、水道管路の損傷などにより多くの地域で断水が発生し、今なお被

災した方々の生活に支障が残っている状況にあります。安心した暮らしのため、上下水道施設や管路の耐震化は、優先して取り組むべき課題の一つであります。本市においても、整備から長い年月を経た施設や管路の老朽化、給水収益の減少や受水費の増加に伴う経営状況の悪化、経験豊富な技術職員の減少及び確保の難しさなど、施設更新と経営面の課題が一層顕在化しております。このため、令和7年3月には和泉市水道ビジョン・経営戦略を改定し、『安心・安全な水をみらいにつなぐ』を理念として、水質管理に関わる「安全」、施設の耐震化や危機管理対策に関わる「強靭」、浄水の安定確保や水道システムの再構築、運営基盤の強化に関わる「持続」の3つの理想像を実現させるため、事業運営に取り組んでいるところです。この会議では、国等の動向も踏まえつつ、本市の実情に即した上下水道事業の将来像について、委員の皆様のお知恵をお借りし、議論いただきたいと考えております。施設更新、耐震化の需要や中長期的な収支見通しをお示ししながら、事業経営の健全化に向けて率直なご意見を賜れれば幸いです。

上下水道は、平時はもちろん、南海トラフ巨大地震など大規模災害の際にも決して止めることが許されないライフラインであります。必要な施設整備と持続可能な事業経営を両立させていくことが、市の責務であります。委員の皆さまには、本市の上下水道事業の将来像をともに描いていただきますようお願い申し上げまして、開会にあたっての挨拶といたします。

４．委員紹介、事務局紹介

５．会長、副会長の選出

【事務局】

本審議会の会長及び副会長の選出をお願いいたします。和泉市上下水道事業経営審議会規程第５条の規定により、会長及び副会長は委員の互選により選出することとなっております。皆さま、ご推薦などございますでしょうか。

特段のご意見がないようでしたら、僭越ではございますが、事務局にご一任頂く形でも宜しいでしょうか。

（委員、異議なし）

【事務局】

それでは、向山敦夫様に会長を、笠原伸介様に副会長をお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

（委員、異議なし）

【事務局】

それでは、向山敦夫様に会長を、笠原伸介様に副会長をお願いしたいと思います。お二方には前方の会長・副会長席にお着き頂き、順に就任のごあいさつをお願いいたします。

【向山会長】

改めまして向山でございます。

熱心な議論を期待されていると思いますので、ぜひ委員の皆様から、闊達なご意見をいただきますように、どうぞよろしくお願いいたします。

【笠原副会長】

改めまして、副会長を仰せつかりました笠原でございます。水道事業は最近、全国的に非常に厳しい状況にあり、どこの事業体も同じような状況に置かれていると思います。皆さんそれぞれの立場から、ご意見を頂戴できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、これより辻市長から審議会を代表して会長へ、諮問をさせていただきます。委員の皆様は、資料２として諮問書の写しをお配りしておりますので、ご覧ください。

６．諮問

市長より諮問書を会長へ渡す。以降、公務のため市長は退席。

７．報告事項（和泉市水道事業の概況について）

【事務局】

それでは、ここからの進行は会長にお願いいたします。

【向山会長】

はい。それでは早速ですが、審議を始めたいと思います。委員の皆様におかれましては、活発なご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、報告事項１　和泉市水道事業の概要につきまして、事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

【事務局】報告 1、資料 3 に沿って説明。

【向山会長】

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、まず皆様からご意見、ご質問等いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【笠原副会長】

はい。確認も含めて教えてください。説明によると、管路の老朽化がかなり進んでいて、これから更新のスピードを上げて進めていこうというお話だと思います。資料 10 ページで管路経年化率の数字が上がっていますが、例えば大阪府内で比較すると、どの程度に位置されるのか。平均としてかなり低い状況なのか、相対的に和泉市の状況を示してください。

また、これから管路の更新率を 1.25%、これまた非常に厳しい数字を掲げて、それを 20 年間で実施する計画を立てておられる。この先、更新率をそこまで引き上げたとしたら、管路の経年化率などはどのような状況になる見通しでしょうか。

【事務局】

水道施設整備担当の一井です。まず府下の 40 年以上経過している管の平均値としては 36.4%、和泉市の数値で言いますと 33.4%となります。ですので、3%程度、和泉市が少ないというような状況になっております。20 年経過するとそれが全体的に上がっていきますので、このまま推移すると府下の平均が 74.8%、和泉市が 78.8%になるということが予測されております。

まず、令和 9 年度については 33.4%から 1%更新することを目指しておりまして、令和 11 年度か

ら1.25%更新として進めていきます。つまり、毎年1.25%ずつ更新されていくという形になります。
【笠原副会長】
更新率1.25%というのは、計画を立てる段階でどういう根拠で導き出されたものでしょうか。
【事務局】
まず、水道管の実使用年数を80年と想定しておりまして、それを1.25%ずつ更新していくと80年周期で全ての管が更新され、1巡の更新が終わるということで1.25%という数字を出させていただいております。
【笠原副会長】
更新計画を立てるにあたり、現実的に実行しようと思っても資金がないと計画を進めることができないと思いますが、投資額を考慮して数字を導きだされているのか、更新の頻度だけを考えてまず1.25という数字だけを掲げたのか、どうでしょうか。
【事務局】
更新率1.25%が先か、費用面が先かというご質問ですが、今後、和泉市の管路耐震化をしっかり進めて守っていくということを考えますと、80年でワンサイクル回さないと水道のシステムが破綻してしまうというところから、まず管路工事を1.25%ずつ進めるというのが前提となっており、それに対して、今後の経営を考えていくという考え方となっております。
【田中委員】
先ほど管路更新率1.25%のエビデンスはどうなのかという話があり、私も気になっていたのですが、お話を聞いていると、公共施設等の再編計画と一体的に考えられるのかなという気がしています。今、人口減少により統廃合がどんどん進んでいると思いますが、そういった施設建築そのものの耐久性、老朽化みたいなものが大体60年以上で更新されるので、この1.25%というのはそういう考え方も含まれているのかどうか、お聞かせいただきたいと思います。
【事務局】
施設のことについてご意見いただいたのですが、当ビジョンでは施設は躯体の寿命が来れば更新するという形で費用の計上をしておりますので、管路と施設、同じ施設更新をしていくという考え方になっております。
【田中委員】
わかりました。ということは、含まれるという判断でよろしいですか。
【事務局】
はい。そのとおりです。
【田中委員】
ありがとうございます。統廃合に関しては、今後どんどんと行われていくように思いますので、それと併せて考えると、この数字が妥当かというところを判断した方がいいと思います。
【上田委員】
1.25%を目指すと最初に決められたということですが、毎年更新していくとすると、総延長が589km。約600kmなので、達成するためには年間7km少しぐらい更新が必要になるかと思います。そうなってくると、やはり職員の業務量が多分それなりに増えたりするかと思いますが、現実的に職員は現状の人数で回すという想定なのか、もしくは、職員を増やす予定なのかということを一点お伺

いしたいと思います。また、もし現状の職員数で回すとした場合、それが現実的に可能なことなのかというのも併せてお伺いしたいと思います。

【事務局】

現在設計を担当している職員の人数は9名おります。更新率1.25%目指すという中では、あと3名ほど増員する必要があり、それについては人事課に対して技術職の増員の要望を上げております。その上で1.25%を目指していくという形で考えております。

また、設計業務なども職員だけではなかなか難しいということで、設計業務委託という形で民間のコンサル業者に対して委託発注し、職員の負担軽減などに努めていきます。以上です。

【水上委員】

冒頭のご説明で事業開始から70余年経ったということがあり、また、1.25%で更新すると80年というサイクルですので、非常に長期間となります。過去70年間にあった変化を考えると、今後80年間ではまた、その地域内のまちの変わり方というのは相当変化が起きるであろうということは想定されるわけではありますけれども、先ほどのご説明で言いますと、和泉市の水道管の工事計画自体は、ＡＩを使った管路の劣化予測で事故率を算出して更新優先度の評価をしているというお話だったかと思いますが、これは回答していただくのは難しいのは理解した上でお聞きしますけれども、今後の都市計画のあり方とどれぐらいの整合性を持った管路更新計画になっているのか、説明できる範囲で構いませんので教えてください。

【事務局】

ＡＩの劣化診断ということなどしながら、管路更新計画を立てております。それと併せて今着手しているのがダウンサイジングの検討でして、水需要予測や人口の減少などを考えた上で、和泉市の管網計算、全体の管路図がありますので、それを分析することで現在入っている管を適切な形で更新する計画を立てて、今後進めていこうと考えております。

【水上委員】

先ほど笠原委員のおっしゃった部分も少し関係するのですが、1.25%の管路更新を進めていく際に、先立つ費用、裏付けとなる財源、資産維持費のようなものを、どの程度今考えられているのかということを、もしあればお聞かせください。

【事務局】

現行の料金収入だけでは賄えないため、起債の発行ということを考えてございます。また、その起債だけでは限界がございますので、適切な料金改定というのも、この水道ビジョン経営戦略の中では、将来的に料金改定も必要であるというふうに示してございます。

【水上委員】

ありがとうございます。

【中嶋委員】

2点あります。2024年にこのビジョンをおつくりになって、次の資料で達成度についてはご説明いただくと思いますが、例えば、先生方がご指摘されたとおり、経営評価は非常に自己評価が高いように拝見します。しかし、起債ですとか、いわゆる借金借入もしくは3条繰入のようなもので、今の人件費高騰ですとか、管路更新1.25%に関しましてもそれ以外の様々なものが今高騰している中で、それは見込んでのビジョンや予算を立てられているのか、少し中長期的な財務計画について、これから

審議をする上で教えていただきたいです。

また、これは公開されている情報を拝見した限りで恐縮ですが、2023 年の 3 月に 1 度、広域水道企業団への参加を検討された上で議会で否決されていると伺っております。これについて、その後どのように、市として経営の方針をお考えになって、このような結果になったのか、厳しい状況ではあるかと思いますが、その 2 点教えていただければと思います。

【事務局】

物価高騰であるとか、そういったことを見込んだ上で、この水道ビジョン・経営戦略の策定はしてございます。ただ、昨今の物価や労務単価、材料費の高騰が見込みを超えているかもしれませんので、それらを見直した上での、中間見直しというのは必要になってくるかとは思います。

また広域化、企業団統合につきましては、否決されたということで、和泉市単独でやっていくということで、この水道ビジョン経営戦略を策定しております。今後については、他市の状況など様々な状況を考慮し、また議会の判断等を踏まえながら、本市の水道事業にとって、最適な方法というのを検討して参りたいと考えてございます。

【中嶋委員】

1 点目について承知いたしました。2 点目については、これからの審議をしていくにあたって、特に料金改定を検討する上では非常に、過去の経緯というのは重視した上で戦略を立てないといけないと思っています。例えばその否決されて以降ですね、これは先ほどの浄水場の今後の計画であるとか、方針であるとか、当然ビジョンにあると思うのですが、一度は企業団への参加を決断するに至った経緯を踏まえて今後検討しないといけないので、必要な要因等があればぜひ教えていただけると、今後、有益な議論ができると思ったのですが、大きな方向転換など教えていただけることはあるでしょうか。今の取水も、大阪広域水道企業団からの受水割合を見て明らかに令和 5 年以降非常に高まっている状況で、それを見据えてそのような決断をされたと思うので、今後どうするのかが非常に大きな課題だと思います。料金改定も、大幅に上げることは厳しい、ただしこのまま議論すると、おそらくそういった結論に至るしかないのでは、というような懸念もございます。現実的な検討をするにあたって、現場の大きなビジョンなど教えていただけたら、ここでの話が詰めやすいかなと思いましたので、この 3 年間の、皆さんのご努力ですとか、特に審議してもらいたいということがあれば教えていただきたいと思ったのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

先ほどの説明の中でもありましたが、和泉市で水を供給している割合としまして、大阪水道企業団の水が 8 割、和泉市で浄水処理の目標としている割合が 2 割となっています。最近では、原水である光明池の水が温暖化現象でカビ臭が発生したりして供給できない状況が続いており、目標とする量の浄水処理ができていない状況となっています。

また、この和田浄水場という施設ですが、昭和 37 年と昭和 42 年に建てられており、もう 60 年以上経過している施設でございまして、そろそろ更新するのかどうかという決断をしていかないといけない時期にございます。今後、浄水処理を続けていくのかというところも踏まえて、内部で検討していかないといけないなと考えてございます。

【笠原副会長】

管路の更新について、もう 1 点だけ確認させていただきたいのですが、1.25%という計画はどうし

ても直近 10 年、20 年で実施しなければならないものなのか、或いは計画を変更する余地があるのかという意味で、お伺いします。例えば、過去の一時期に布設が集中していたのであれば、ある時期に老朽化率が一気に上がるという状況になって、その場合は平準化するために、ある一定の時期にかなり集中して投資しないといけないというような状況になるのかなと思うのですが、和泉市がそういう状況なのか、或いは割とコンスタントに向こう 10 年 20 年ぐらいは更新を進めていけば、対応できるというふうな状況なのか、その辺の、更新需要の見通しといいますか、それはどんな感じでしょうか。教えていただきたい。

【事務局】

和泉市においても、青葉台、緑ケ丘などといった地域では、戸建住宅がいっときに重なってできた時期があり、それらはやはり同時期に老朽化を迎えてしまうこともあり、それらの更新をやっていかないといけないという状況になっていきます。ただ、広範囲にわたる場合は一度に全部することはできないので、それを年度ごとに、ある程度区切ってやっていく必要があると考えております。

【笠原副会長】

そうすると、更新はしばらくの間進めていかないと、その辺りの更新需要のばらつきをならすことができないという、そういうことですね。

【事務局】

はい。それとあともう 1 つ大きい話として、上下水道耐震化計画というのがありまして、その中において、国から 5 年以内に指定避難所や、災害医療センターである病院に向けての管の更新、耐震化というのが示されておりますので、そのペースも踏まえた上で更新率を上げていくということが必要になっております。1.25%というのは、続けていかなければいけない数字になっています。

【寺嶋委員】

今まで 1.25%という数字が出てくるのですが、年間 7km の整備の中で、幹線をやるとか、色々な管の種類によって違うと思うのですね。ＡＩによって管路更新計画を立てたときに、ＡＩに与える情報としてはどういうものを与えたのか。情報としては、施工年度、地質、工法、深さなど色々データあると思うのですが、それを踏まえて 1.25%の順番、整備計画の順番ができているかどうかお聞きしたい。

【事務局】

ＡＩに与えた情報につきましては、まずおっしゃっていたとおり、布設年度や管の種類、地形などのビッグデータ･･･あと管の重要度が大きいところとしてありまして、まずメインの管が災害で破断すると影響が大きいので、重要度と管の老朽度というのを表にまとめて、更新の優先順位を考えたものとなっております。

【寺嶋委員】

そうすればですね、耐震化計画で、例えば緊急避難所とか病院とか、そういう優先度の高いところが出てくるかと思いますが、そういった箇所へのルートを最初に 1.25%の中でやっていくのか、というふうな考えになってくると思うのですけど、それはいかがですか。

【事務局】

先ほど申し上げたとおり 5 年以内に、耐震化計画を終える目標ということで挙げておりますので、その路線をまず優先し、重要度の高いところから更新していくということになります。

【向山会長】
2点質問します。1つは先に質問のあった和田浄水場のことなのですが、今これを更新して、新しく柱にしていくのか。或いは、その初期投資がどれぐらいで、それが価格にどれぐらい反映されるかはシミュレーションしてみないとわかりませんが、広域水道企業団から全て購入してしまえばどうかとか、恐らく今後、比較考量が行われるのかと思うのですが、現段階では和田浄水場の基本方針としてはどのようにお考えなのかというのが1点目の質問です。
もう1点は、8ページ目の事業会計なのですが、損益計算書と貸借対照表がないのでわかりませんが、給水収益はほぼ横ばいになっていますが、純利益がどんと減っているという、その下の説明では和田浄水場の稼働率の話があるのですが、純利益が前年度と比べて10分の1以上落ちているということ。その理由を簡単で結構なので教えていただきたいのが2点目です。
【事務局】
まず、和田浄水場という施設の件です。先ほどもお話させていただきましたが、和田浄水場で思うように水が作れていません。それによって企業団から水を購入すると、1㎥72円かかります。和田浄水場では、令和7年度浄水すると1㎥あたり約130円かかっているのが現状です。この原因が、水温の上昇によって藻が発生することで水質が悪化していくことや、水不足などで十分な水が貯まっていないといったことがございます。自然の現象でございますので、なかなか我々の力で思うようにいかないところがあります。そういったところもありますし、施設の老朽化も進んでいるというところで、これから施設のあり方をどうしていくか判断していかなければいけない状況ですが、ただ現在、どういう方向に進むかというのは、まだ示しておりませんので、これから検討していく次第です。以上です。
【事務局】
当年度純利益が下がっているということですが、収益がほぼ横ばいで、支出の方が大きく上がっているということなのですが、和田浄水場の稼働率低下に伴い、企業団からの受水費がかなり増加したということが一番の要因と考えてございます。
【向山会長】
結局は企業団からの購入する費用が増加したことが低下要因だと。
【事務局】
一番の理由はそのように考えております。
【事務局】
また、もう1点ですね、この給水収益に含まれない新規水道加入金が今までであれば宅地開発に伴って、口径20mmであれば1件当たり13万2000円というものが入ってたのですが、和泉市の宅地開発がひと通り一段落してしまったことで、この新規水道加入金自体も当初見込んでいない分がぐっと下がったというところで、給水収益以外の収入も下がってることによって純利益も圧迫されている現状でございます。
【事務局】
すみません。少し補足させていただきます。
先ほどの和田浄水場のお話ですけど、和田には1系統、2系統と2つの浄水系統があり、まず1系統は8月の当初から11月の中旬まで停止しております。この停止している理由は水質の悪化による

停止になっております。
次に 11 月の末から 3 月末ぐらいまでですね、今度はこの 2 系統の方が水量減による停止ということで、年間ほぼ光明池の水を取れない状況になっています。令和 8 年度も 8 月 4 日から、光明池の水を取水停止している状態になっています。
それと市内ですが、和田と父鬼、2 つの浄水場がありますが、これが老朽化しているということで、老朽化しているだけでしたら、建て替えというふうな考え方も出てくるんですけど、この建設されている土地が、和田の場合は河川の氾濫で侵食される土地、要は崩れていくというような土地になっています。ですので、改修していくとなるとそういう侵食を防ぐような手だてをしていかないといけない。また父鬼の方は、土砂災害警戒エリア、レッドゾーンのところに全てが入っている状態になっていますので、これも建て替えする場所というところから検討する必要があります。
簡単に言うと、そこに費用をかけるのが本当にいいのか、それとも先ほど言われましたとおり、企業団の水をつないで安定的な水を供給するべきかというところが、課題として認識しているところでございます。
【笠原副会長】
ちょっと今の質疑で 1 点だけ確認させていただきたいのですが、資料の 6 ページを見ると給水戸数って今現在右肩上がりで上がっているようなのですが、先ほどのお話だと、その新規加入の加入金というのは現在徴収しておられないということでしょうか。
【事務局】
徴収はしておりますが、この戸数の上昇が少なくなってくることによって、加入金収入自体はあるのですけれども、当初見込んでいたよりも、収入が少なくなっているということですね。
そのほか委託料等の費用というものも、やはり上がっている部分がございますので、そのバランスで純利益が圧迫されている状況です。
【笠原副会長】
わかりました。
【上田委員】
更新の方針は今後 1.25%で進めていくということで、財源として企業債、料金改定も考えていかれるということでした。財源、料金改定とか、企業債がどれぐらい入るかっていうのは、投資が実際これぐらい必要で、この年度にこれぐらい必要だから、将来的に今後 10 年 20 年としてはこれぐらい必要だから財源どうするの、それでは賄えない分は料金改定しましょうというふうに考えていくのが、通常の流れかと思うのですけれど、1.25%工事するっていう漠然とした目標からスタートしてしまうと、正確に料金改定何%すればいいかとか、財源どれぐらいあればいいのかというのが、あんまり実際とかけ離れたものになってしまうかと思うので、多分ビジョンで作られた収支計画はそれほど精緻な投資計画にはなってないのではないかと思われるので、その料金改定を申し上げる段階が来たときにはもうちょっと精緻な投資計画を立てたほうがいいのではないかと思いました。
【事務局】
ありがとうございます。具体的な料金改定の時期とか、改定幅につきましては、今後、事業の計画や市民負担への影響、そういったことも考えた上で、本審議会及び市議会と十分議論していきたいと考えております。またその際には今後の物価高騰も踏まえ、精緻に、より正確に判断していく必要が

あると考えてございます。
【事務局】
すみません、よろしいでしょうか。補足になります。
この水道ビジョンにおきましては、昨今の大幅な物価高騰を見込んでない、ビジョン策定時の想定以上の値上げが起きておりますので、水道料金改定に当たりましてはそういった精査をきちんとした上で数字を出していきたいと考えています。また、我々の工事費用につきましても、更新計画で本当に大きな事業費を出しているのですけれども、材料費や人件費が上がっていますので、そういったものもより細かく精査をした上で、しっかりと経営改善に係る部分の費用をお示ししたいと考えております。
【田中委員】
水づくりのところで、市の独自の水づくりということで浄水場、2つ挙げていらっしゃいますが、これ設置されているのは市街化調整区域ですよね。市街化調整区域で、確かレッドゾーンだっておっしゃっているところでは、建設許可、新しく作るということでできないというようなこともあって、更新するとか、方針を出すのが難しいような気がしています。それが1点です。
もう1つですけれども、水不足というところで言うと、この共創の社会、市民と行政が協力してつくっていくという社会の中で、この実態というか水不足であるということを、市民の方はご存じなのかどうか、知ってらっしゃる方ももちろんいらっしゃいますが、ご存じない方もいらっしゃって、そこの情報開示の問題とか、或いはその市民の中にこういう状態なので水の使い方をもう少し考えようっというような発信などはいかがでしょうか。もちろん明確に言えないこともあるというのはよくわかるのですけれども、少なくとも共創社会の中で何とかできることはやっていかないといけないのは市民の立場でも、私自身が他の自治体に住んでいても、協力できることはないかなというふうに感じるわけでして、そこの部分の情報共有とか、そこのところを教えていただきたいと思います。以上です。
【事務局】
はい。1点目の父鬼浄水場の市街化調整区域のお話ですが、もし浄水場を建て替える等の検討に入っていくとしたときは、もちろん市街化調整区域に整備できるかどうか、土砂災害警戒区域に入ってないか、そのあたりもしっかり検討して判断していかなければならないと考えております。
2点目の水不足の件ですが、現在、光明池の水が不足したり悪化したりして、取水を止めた場合は、大阪水道企業団水の割合を増やして対応しております。蛇口をひねったら出る水には変わりがないような状況ですので、おそらく市民さんは水が不足しているという認識はそんなにないのかなと思っております。光明池の水の水質が悪化しているという点につきましては、市民の方に周知して、現状を把握してもらうというのは大事だと思いますので、今後検討して参りたいと思います。
【事務局】
追加でご報告させていただきます。
共創社会の中では、市民と一緒に、まずは原因となっている課題から共有していかないと共創には繋がらないというところかと思っています。
先ほど申し上げたとおり、光明池の水不足というところの認識の共有はできてないということのみならず、今、水道事業がどういった課題を抱えているのかとか、更新率を1.25%と言っているのです

けど、今後どういうふうに向かっていくんだとか、それに対して経営状況がどうなっているんだというところの状況について、市民の共有、広報というところがですね、正直に申し上げて欠けていると認識しております。

ここは我々の課題として、市民へ情報を提供して、今の課題を共有するということが非常に重要かと思いますので内部でも検討を進めて実施していきたいと思います。

【向山会長】

ありがとうございました。

まだまだ委員のみなさんご意見をお持ちかと思うのですが、次の審議事項がありますので、審議事項１　和泉市水道ビジョン・経営戦略に基づく取組みについて、事務局より説明をよろしくお願いいたします。

８．審議事項（和泉市水道ビジョン・経営戦略に基づく取組みについて）

【事務局】審議事項 1、資料 4 及び 5 に沿って説明。

【向山会長】

ありがとうございました。委員の皆様からのご質問、ご意見、いかがでしょうか。

【上田委員】

項番 11 についてですが、有価証券を購入したということですが、具体的にはどういったものを、幾らぐらい購入されたのでしょうか。また、有価証券にはリスクもあると思うので、そのリスクを下げるために何かされたことがあるか、教えてください。

【事務局】

短期の有価証券ですが、国債と地方債とか、そういったものを購入しておりますが、ガイドラインを定めて償還日まで持つということで運用しております。

また、1 年以内の債権もございまして、トータルで 4 億円分を購入して、利息としましては約 170 万円の償還益があったものでございます。

【上田委員】

ありがとうございます。基本的には短期で運用されるという方針になってるんでしょうか。

【事務局】

10 年、15 年という長期のものを過去に買って今現在も保有しているものもありますが、短期については、資金状況を確認し、1 年以内の償還、年度を超えない部分で運用を実施できるようにガイドラインを改正して、実施をしているというところでございます。

【上田委員】

現在、国債の値段が下がっており、20 年で契約している自治体が解約するにもできず、満期まで資金が塩漬けにされてしまう状況になっていると聞いたことがあるので、短期であれば大丈夫だと思うのですけど、長期で持つ場合はよく検討された方がいいと思います。

【水上委員】

説明いただいたところ、内容については理解しましたし、その評価ですぐに修正する話でもないとは思うのですけれども、ただ、この評価指標のＫＰＩだけを見比べたときに、具体的な取り組みの項

番 4 と 10 を見比べた場合に、4 は A、10 は B 評価となっている。指標として、重なるものもあり、かつ、B がついている項番 10 の方が進んでいる項目も多いようにも見えますが、B 評価となった原因としては管路更新の部分で、1 件繰越工事になったということが大きく影響するという理解でよいでしょうか。

【事務局】

項番 10 ですが、一番下の項目の管路更新率のところで 0.1%繰り越し工事となったため、満たしていないということで B 評価としました。

【水上委員】

評価というのは結果が一人歩きするものでもありますので、その辺り、わかりやすく基準があるとよいと思います。

あと、これはコメントではありますが、先ほど上田委員がおっしゃられた資金運用の部分、もちろん短期でこういう流動的なところは重要な方針であると同時に、自治体によっては、一般会計と一緒に基金を集めて運用している事例もあります。どうしても 1 つの特別会計だけで行うのは、いろいろと不利だと思いますので、市全体で取り組む課題でもあるかなっていうように思います。

【笠原副会長】

ちょっと幾つか。感想みたいなものもあるのですが、まず最初の水質管理体制の評価ですが、評価自体、これはこれで A ということであればいいのですが、そもそもの具体的な取り組みというところで、法令を遵守すれば A 評価というのが目標に掲げられているものがあったり、あとは小規模貯水槽水道の管理などは年 1 回啓発すれば A と。これ他の事業体では、具体的にどこまで下げるというものを明確に数値目標を抱えて取り組んだりされてるところもありますので、私の感覚からすると計画の評価指標の立て方自体がちょっと見劣りするなというふうな印象を持ちました。これに関しては職員研修に関しても同じようなことがいえるかなと思います。これ技術継承というふうな観点で、内容を上げておられるんだと思うのですが、本当にこの内容だけで技術の継承ができるのか、と疑問に思いますので、もう少し次回、また次のビジョンなどで中間見直しをすると思いますが、その検討をされるときに、指標についても注意されたらいいのかなという気がいたしました。

それから今お話のあった耐震化と老朽化の管路に関する話ですけど、今は水道の場合は耐震化イコール老朽化対策というところがありますけど、更新頻度を上げていって、2 回転目にいくと、今度は耐震管が老朽化していくというふうな状況になっていくので、老朽化の対応を見るための指標と耐震化の対応を見るための指標というのは別であるべきなのかなというふうな感じがします。

例えば老朽化であれば最初事業の説明のところで経年化率っていう数字を出されて、経年化率をもとに、どれぐらい老朽化が進んでいるか説明されていましたけど、ここのビジョンの方では、その経年化率というのは上げておられないので、老朽化という意味ではこのまま放っておくと、毎年例えばその耐用年数を超える管路が総延長として何 km ずつ増えていくのか、また老朽化していくペースを上回る更新をしないと老朽化を抑えられないというふうな話になるので、その老朽化のペースと更新ペースのその対比の中で、どれだけ業務を進めていくかというところが決まってくるのかなというふうに思うので、そういう意味ではここに上がっている指標が累積値で、積分値で出てくる指標と、毎年こんだけやりますという更新率っていうその毎年の微分値が、今これ両方まざっている状況なんですけど、その辺りは本当に老朽化の対応をしたいということが事業の第 1 目標になっているのであれ

ば、すごく重要なところじゃないかなと思いますので、もう少ししっかり検討していただいたらいいかなというように思います。

それから私先ほどから1.25%の話ばかりして恐縮なんですけど、気になるのが11番目の給水収益に対する企業債残高の割合が、おそらく、これが老朽化の財源としては企業債を借りて、ここの割合を増やしていって更新を進めていくというのかなと思っていたんですが、令和7年現在で60%とか70%台とかですから、ちょっと私の記憶なので不確かですが、多分大阪府内でもかなり低いほうに入るだろうと思うんです。ただ、これがビジョンの最終になるんでしょうかね。最終の段階では600%以下というふうになっていて、ここまで来ると大阪府で今度は逆に、もうかなり最悪に近いような状態になって、そこまでして1.25%の管路更新をするっていうような計画になっているのかなと思ったんですけども、そういう理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

委員おっしゃるとおり給水収益に対する企業債残高の割合が今のビジョンで定めた経営戦略の収支計画の中では、令和15年度に592.5%を料金改定を行った上でも見込んでいるという形になっておりまして、先だって上田委員からご指摘のあったとおり、経営戦略の数字をより精緻に行った方がいいというお話があったんですけれども、それと合わせた形で企業債残高につきましても、これから利息が増えていく昨今の状況で、毎年毎年返すべき利息が膨らんでいくというのは収支悪化の原因にもなって参りますので、そこのバランスを考えないといけないと認識しております。現時点で策定している計画が、管路更新率1.25%をまず第一の目標とするというところから発進した経営計画になっていることからこのような数字になっているため、これをどう進めるかというのが今後の料金改定の値上げ幅にも繋がる話になっていくかと思っております。

今の1.25%を達成させる一方で、企業債残高については低く抑えるというためには、料金改定の値上げ率を上げるしか方法はない、という形になって参りますので、そのときには収支のバランスをきちんと見て数字をだしたいと思っていますが、現段階で明確な回答はできません。申し訳ないです。

【笠原副会長】

おそらくこの計画年度等をみる限り、計画の検討をされたときは今の金利の状況なんかは想定しておられないときに計算された結果なのかなとは思います。他市の料金改定とかで財政シミュレーションの状況を見ていても、短期間で見通しがどんどん変わっていっているような状況かなと思いますので、1.25%必要だから1.25%という数字を上げておられるんだろうとは思うんですけども、やっぱりちょっとある程度柔軟に、必要があればその目標を少し見直したり、計画年度を少しシフトできるのであれば、ある年度は抑えてその分をあとに回すとか、ちょっと色々調整をされたりして、更新ペースの向上と、起債の抑制ですかね、これらを両立できるような方法を模索していく必要があるのかなと思います。ちょっと、かなり厳しい見通しなのかなというふうな印象を持ちました。以上です。

【寺嶋委員】

項番12「施設整備事業の見直し」というところで、上の段にある和泉市水道管路更新計画というのが、令和7年度に策定して令和8年から20年かけて進めていく計画になっていると思うのですけれども、また、中間目標で令和12年度に計画を見直すということで、8年から11年までの間はこの前期の計画どおり整備をしていくということでいいのかどうかということと、その下の鋳鉄管更新計画については中間目標の時点で完了としているということは鋳鉄管は改修更新をすべて今後この5年

間で行うのか、管径にもよるが鋳鉄管をポリエステル管に切り替えたから鋳鉄管自体の延長が減ったからかなど、ちょっと気になるのでその辺りの説明をお願いします。

【事務局】

管路更新計画につきましては、今の上下水道耐震化計画と鋳鉄管更新計画を併せて5年以内で行う予定としております。延長については、このレッド、オレンジ、イエローという中に各延長がございまして、この赤とオレンジの部分に上下水道耐震化計画と鋳鉄管更新計画の両方を含んでございます。延長ですが、レッドゾーンが13.7km、オレンジゾーンが7.2km含んでおりますので、中間見直しを受けて、それまでにはこの計画を済ませて、次はオレンジ、イエローというところの更新を進めていく予定でございます。

また、緊急輸送路につきましては延長の方が600mぐらいになっておりますので、短い期間で終わるかなと思っています。

【中嶋委員】

お金に関する部分は今、先生方が指摘されたとおりかと思います。また、全体の指標については、笠原副会長がおっしゃったとおり、結果だけみるととても業績がいいし、とても完成度が高いので、これだけみるとなぜ料金改定が必要なのか、という議論になってしまうのではないかと思いますので、市民の皆様に本当に上下水道事業の現状や水道ビジョンの状況を知っていただくには、次年度の評価指標を作られる際には、もう少し周辺都市を参考にされたり、厳しめの基準をつくることも必要ではないかと思います。

例えば、水質の安全といったことなどでは、昨今話題となっているPFASに関する基準というのが見当たらない点が気になりました。もちろん基準をクリアされて安心安全な水であるということはわかるのですが、市の基準として今後長期的な視点でみたときに適正な基準なのかというところはぜひ、ご議論いただければと思います。

防災の観点から災害に備えての項目7についてお伺いをいたします。和泉市の地形を拝見すると山間部も多いと思います。地域防災訓練の実施もされていて、とてもいいことだと思っておりますが、これはそういった地域の方、都市部や山間部を含めて、住民や自治会の方と連携しておられるのか、消防団等と連携をして実施おられるのかということを教えてください。

【事務局】

まず、水質のPFASについてご説明します。こちらにつきましては、令和8年4月から水質検査の基準が変わりましたことから、今年度の事業評価につきましては、この辺りに対応した評価としていくような形で考えています。今ご覧いただいているのは令和7年度の評価でございますので、51項目の評価となりますが、これが52項目の検査としていくようになります。で、現状の基準で3ヶ月に1回、PFASの検査をすることになっておりまして、その基準をクリアした旨をホームページで公開している状況です。

もう1点の地域の防災訓練関係ですが、7番に記載しております耐震性緊急貯水槽訓練では、地域の町会に声をかけて実際現場に集まっていただいて、使い方は我々が実践して見ていただいて、どういうふうに使えるかっていうのを周知しております。

【田中委員】

項番4や12のところ、その他にもですが、計画を策定したこと自体が評価に繋がっているという

ところがあります。些細なことなんですが、計画プランを立てる前には、やはりその前の段階で事業を見直すという、見直しがあって改善され、計画が改善されたというような、そういう書き方の方がいいかなというふうに感じています。この中にはPDCAサイクルをいかに回していくかというところがベースにあるというふうに認識しています。それは例えば制度を作ったとか、条例を制定したとか、改正されたとか、そういったところも含めて計画を策定しただけじゃない、制度を作ったわけじゃない、そこのところの、PDCAサイクルをどう回していったかというところが、書かれていればいいかなというふうに感じています。

もう１点なんですけども、原課が出されたいろんなＫＰＩなんですけれども、この中には社会教育とか生涯学習とかと連携しながら達成してきたというような内容も見られます。或いは防災に関しても、危機管理部局などと連携して、それが市役所と民間だけではなくて、市役所の内部の中での連携もされているというのがこの中から読み取れるんですけれど、そこは評価として含めているのかどうかお伺いしたいと思います。

【事務局】

まず最初の計画の部分についてですが、おっしゃるように、PDCAという形が重要だということで考えておりまして、これまで様々な個別の計画はありましたが、全体計画というのがありませんでしたので、今回新たに計画策定に至りました。管路更新計画や鋳鉄管更新計画、上下水道耐震化計画などを策定していることがＰということになりますが、次は、計画に沿って進めていくということを考えております。

【事務局】

2点目の行政間連携の件ですが、指定避難所に緊急時に使えるような給水栓設置を今年度から行っていく予定としております。

指定避難所の備蓄倉庫にも物品を入れたりもありますので、危機管理部局や学校と調整しながら進めております。また、指定避難所は学校がほとんどですので、学校との連携をしながら、また、学校を管理している学校管理室とも連携しながら、給水栓をどの位置に設置するのが一番いいか、また、学校の運営の邪魔にならなくて、かつ、災害時に使いやすい場所であったり、緊急時の車の動線への配慮、そういったことを確認しながら事業を進めております。

【田中委員】

ありがとうございます。それを聞いてやはりと思いました。

上下水道というテーマですけれども、それに付随してまちの環境というものが連携してあるわけで、そこの接続というか、いかにそのまちを総合的に見ていくかというところのヒントになるかなと思うので、その基盤となるのが上下水道などのインフラなので、そこのところはちゃんと理解を深めるような表現にしておくことを感じました。まちの見えない部分をしっかりと作っていて、それがまちに影響するんだという、そういう部分をしっかり伝えていただければと思います。

【向山会長】

ありがとうございました。いろいろご意見いただきましてありがとうございました。

そろそろ時間となりますが、これはどんな形でまとめてフィードバックしていただくことになるんでしょうか。事務局お願いします。

【事務局】

今回の審議内容につきましては、議事録を作成し、会長へ報告の上、委員の皆様に報告するとともに、市のホームページへの公開を行います。ホームページへの公開につきましては、会議から1ヶ月以内に行うこととなっておりますので、規定に沿って行う予定としております。

また、本日委員のみなさまからご指摘、ご意見いただきました今後のビジョンの評価、進捗状況の評価の仕方につきましては、来年度の評価に対して、適切に反映させていただきたく存じます。

本日、諮問させていただいた件については、長期的に今後、複数回会議を重ねて、最終的に総合的な答申という形を頂戴したいと考えております。答申のタイミングにつきましては、令和9年度の末ごろにお願いしたいなと考えております。

今後のまとめ方につきましては、今後のこの審議会の進行と、扱うテーマの中で出てくる委員の皆さまのご意見をまとめた上で、事務局として一緒に作り上げていきたいと思っておりますので、こういった答申をいただきたいという、明確なものをこちら側から定めるものではないと考えております。今後の審議会を踏まえて、そこから導き出された方針を答申としていただきたいと考えております。

【向山会長】

ありがとうございました。今後について、事務局から連絡等ありましたら、よろしくお願いします。

【事務局】

事務局からご報告が1点ございます。

次回、第2回審議会につきましては、来年2月初旬頃に開催できればと考えております。日程が決まり次第、皆様にご報告をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、次回の審議会までの間に市議会の方で決算の認定をいただきましたら、令和7年度財務諸表等お送りさせていただきます。その他、広報いずみなど、上下水道事業に関わる情報提供を都度させていただきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

【向山会長】

ありがとうございます。委員のみなさまも非常に熱心なご意見をいただきましてありがとうございました。以上をもちまして令和8年度第1回和泉市上下水道事業経営審議会終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

－終了－

会議の顛末を記載し、その相違ないことを証する。

和泉市上下水道事業経営審議会　会長　　向山　敦夫